
ぬくもり味のチョコ

tonebon

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぬくもり味のチヨコ

【Nコード】

N7257Z

【作者名】

tonebon

【あらすじ】

昔書いたSSです。テーマは「バレンタインデー」。ご都合主義全開です。

ぬくもり味のチョコ

2月5日 くもり

今日、昌子を泣かしてしまった。
あまりにも勝手だと言うのだ。

山は今の俺にとって全てなんだ。
俺が俺である証明なんだ。

誰になんと言われようと俺は参加する。

2月6日 快晴

朝早くの出発だったのに、昌子が見送ってくれた。
お守りと封筒。あいつがくれた。

サークルのやつらに茶化されたが、昨日の事もあって、ノレな
った。

まったく、昌子は心配症だ。

なに、谷沢岳はいろんな人が登っている有名な山だから安全だよ。

2月7日 快晴

山開きしていない谷沢岳を登る。

うちのサークル伝統の行事らしいが、山頂から眺める景色を見た
ら、納得した。

白銀に染められた山々を見下ろす快感。

これを見たら、後輩にも見せたくなるよな。

だから、言つたらうすごいつて。 <秋林先輩が書いた。
これ、山頂で書いてるんだぜ。

これ位の雪で登山禁止なんて、クライマーをなめてるんだ。 <青山
僕も同感！ エベレストとかなんか、年中雪つもってるしね！ <

中島

わたしにだって登れてるよ！ By・ゆきく相田
みたか、民宿のじじい！ 俺たちは素人じゃねえんだ！<青山
そうそう、なめられてるよね、あたしたち。<相田
最高だぜ！ みんな！ 大学登山サークル万歳！

- - - - -

「これ、雪の染みでしょうか……」
「ええ、そうでしょうが……よく読めますね、こんなグチャグチャ
にしてあるのに」

「なんとか。楽しそうですね……みんなでいっぱい書いて……」

- - - - -

2月8日 霧

最悪だ！ なんでこんな事になっちまったんだ！

2月9日 霧

ふざけんな！ 秋林の野郎！ あいつのせいだ！！
なんで、こんなバカなサークルに入っちまったんだ！
なんで俺がこんな目にあわなけりゃならねえんだ！

2月10日 くもり

俺が悪かったのかもしれない。
いや、俺は悪くない。悪いわけではない。
足がじんじんする。

くそ、こんなの、いつもトロい中島がやる役だ！

2月11日 くもり

食料が心許ない。くそ！
足がいてえ！

2月12日 霧

寒い。足がいたい。くそ、腹も減った。

2月13日 霧

やっぱり俺も悪かったのかもしれない。
食料も尽きた。水はあとすこしある。
山頂でビールなんか飲むんじゃない。

- - - - -

「……この染み、ビールの染みだったのでしょか」

「雪かもしれませんが」

「いえ……」

- - - - -

2月14日 霧

山を降りる時、雪に足をとられ、俺は斜面をすべった。

そのまま滑って谷に落ちてしまった。

斜面はすべって、なんにもつかまる所がなかった。

雪で見えなかったが、地面が凍っていたのかもしれない。

雪山の恐ろしさをやっと理解できた。

幸い、足を痛めただけですんだが、思うように動かない。

じんじんと痛む。

サークルのみんなは、無事に山を降りただろうか。

もう、あれから一週間か。

昌子、ごめんな。封筒の手紙読んだよ。

お前はこんなに、俺を心配してくれてたんだな。
ブランデー入りのチョコおいしかったよ。
冷たいチョコだけど、お前の心であつたかい。
お守りを握り締めると、お前の笑顔を思い出すよ。
ごめん、俺の全てはお前だったんだな。
お前のぬくもりが恋しいよ。

- - - - -

「そこで日記は終わってます。昌子さん」
わたしは封筒に、手紙と、以前みたアニメでやっていた知識から、
ブランデーチョコを入れておいた。
あくまで念のために。バレンタインにあげるチョコのつもりじゃ
なかった。

「先生……ありがとうございました」
病室から院長先生が出ていった。ベットに彼が寝ている。
サークルの仲間がよんだ救助隊ではなく、民宿のおじさんが彼を
見つけてくれた。

先生の話だと、死後からそんなにたっていないらしい。
「ブランデーチョコが彼を生き延びさせたんだ」
先生はそう言ったが、わたしの前に、彼の笑顔はない。意味がな
い。

彼の顔。ヒゲのかたさ。感触。
「……こんなにつめたくなっちゃって……」
涙で彼の顔がみえない。なんで、なんで、わたしは彼を止められ
なかったのだろうか。

なんで、わたしもいっしょに山にいかなかったのだろうか。
わたしのバカ。

服をぬいだ。上着も、下着も。

彼の体からシーツをのけ、服を脱がせた。足のギプスが悲しい。冷たい体に肌をあわせる。

「ぬくもり、あげるよ。だから戻ってきて……」

彼の体にわたしの体温をあげる。お願い、神様。彼をかえして！

.....

「昌子さん？」

……いつのまにか夜があげたようだ。

「……院長先生……」

病室、院長先生。すべては昨日のまま。わたしは……彼の胸で目覚めた。

「あなたの願い、かなったようですよ？」

え？

「ご、ごめんな、昌子」

え？

「昌子さんのチョコとぬくもりが奇跡を呼んだのですよ」

え？

「彼女の奇跡にみあったお返しをする必要がありますよ、あなた」
彼の震える手が、わたしの髪をやさしくなでた。

.....

3月14日 快晴

俺は昌子と結婚した。絶対に幸せにする！

(後書き)

昔、某所で書いたSSです。

リハビリと精神修行で晒します。

うぎゃー

バレンタインデーなんて爆縮しろー

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7257z/>

ぬくもり味のチョコ

2011年12月24日01時45分発行